

新規事業採択時評価結果（平成30年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：村山 一弥

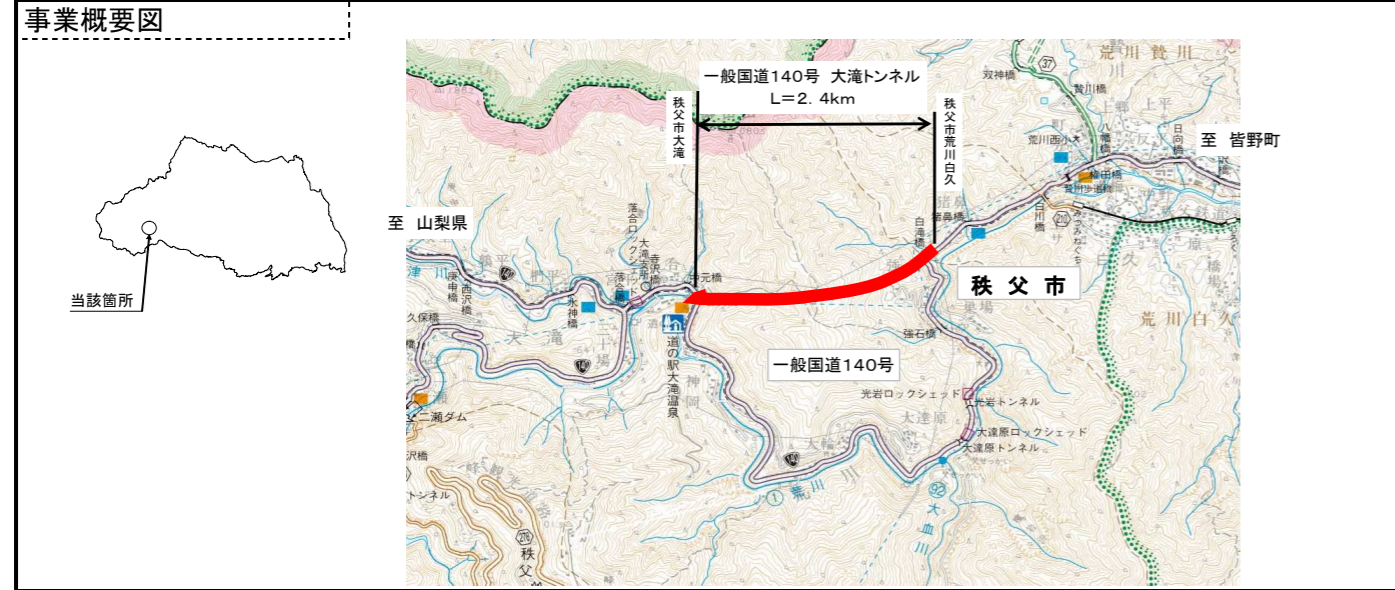
事業の概要

事業名	地域高規格道路 西関東連絡道路 一般国道140号 大滝トンネル	事業区分	一般国道	事業主体	埼玉県
起終点	自：埼玉県秩父市荒川白久 至：埼玉県秩父市大滝	延長	2.4 km		

事業概要
西関東連絡道路は、関越自動車道花園ICと新山梨環状道路を結び、秩父・児玉・大里地域と山梨地域との広域交流を促進する延長約110kmの地域高規格道路である。本箇所は、西関東連絡道路の一部を構成する区間であり、アクセス性向上、防災機能の強化、走行性向上、走行安全性の向上に寄与し、また、災害時の代替路線としても期待されている道路である。

事業の目的、必要性
秩父市大滝地区の国道140号は、急斜面の山裾を切り開いた道路であり、急カーブの連続に加え、岩盤崩落、落石も発生している。また、迂回路のない唯一の幹線道路であるため、災害時の重要な避難路・輸送路にも関わらず、交通ネットワークの代替性が確保されていない。
本箇所は、現道約7kmを約2kmとし、走行時間の短縮、走行安全性の向上、防災機能の向上に資する道路である。

全体事業費	99億円	計画交通量	5,500台/日
-------	------	-------	----------



関係する地方公共団体等の意見
秩父市、小鹿野町など秩父地域の沿線自治体議員で構成される秩父地域基幹道路建設促進議員連盟（県、秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、東秩父村）から早期整備を最重点として要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
埼玉県公共事業評価監視委員会より、本箇所の新規着手は妥当と答申されている。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.2	総費用：83億円 （事業費：74億円 維持管理費：9億円）	総便益：98億円 （走行時間短縮便益：73億円 走行費用減少便益：22億円 交通事故減少便益：3億円）	基準年：平成29年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=0.9 (交通量 -10%)	B/C=1.5 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.1 (事業費 +10%)	B/C=1.3 (事業費 -10%)	
		事業期間変動	B/C=1.1 (事業期間 +20%)	B/C=1.3 (事業期間 -20%)	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	-	注目すべき影響はない	
		事故対策	◎	線形を良好にすることにより通過交通に起因する死亡事故が減少 [死亡事故率] 【安全性の向上（事故の減少）】 ・現道区間 並行現道区間：1.456件/億台km（現況） ※県内平均死亡事故率 0.478件/億台kmの約3倍	
	歩行空間	○	歩道整備により歩行者の安全確保		
	社会全体への影響	住民生活	○	第二次救急医療施設「秩父病院」へのアクセス向上	
		地域経済	○	関越道・中央道から秩父観光施設へのアクセス向上	
		災害	◎	岩盤崩落や落石が発生している現道区間をバイパスし、第一次特定緊急輸送道路の機能強化	
環境		-	注目すべき影響はない		
地域社会	○	山梨県～埼玉県間の交流・連携の促進への寄与			
事業実施環境	○	「埼玉県5か年計画」において、埼玉の活力を高める道路ネットワーク整備の主な取組として、当該路線の整備促進が位置付けられている。 秩父地域基幹道路建設促進議員連盟から、早期整備を要望されている			

対応方針

事業主体である埼玉県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.2と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、災害や事故等が発生した場合の輸送路の強靱化、線形が良好になることによる交通事故の減少、高次医療施設や観光施設へのアクセス性向上が図られるなど、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。
以上により、本箇所は平成30年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。